

# 関西学院大学 研究成果報告

2020年 3月 31日

関西学院 院長殿

所属：国際学部  
職名：教授  
氏名：長友 淳

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input checked="" type="checkbox"/> 関西学院留学 長期（滞在国：ドイツ、オーストラリア） <input type="checkbox"/> 関西学院留学 短期（滞在国： ） <input type="checkbox"/> 宣教師研究期間
研究課題	日本人中間層移住者のエスニック・コミュニティの凝集性と社会的ネットワークに関する研究
研究実施場所	ドイツおよびオーストラリア
研究期間	2019年 3月 20日 ～2020年 3月 19日（ 12ヶ月）

## ◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

本研究は、国際結婚やビジネスあるいは留学など、様々な形態で国際移動している日本人中間層が構築するエスニック・コミュニティの凝集性および社会的ネットワークについて、質的社会学および文化人類学的フィールドワークを通して研究した。フィールドは、日本人居住者の人口規模が大きく、様々な移動形態の日本人が多いドイツ南部（ミュンヘンおよびアウグスブルク）、およびオーストラリアのクイーンズランド州南東部（ブリスベンおよびゴールドコースト）を中心に研究を行った。年度前半は主にドイツ、後半はオーストラリアにて調査を実施した。調査概要は以下のとおりである。

### ① 文献研究・統計調査

ドイツ、オーストラリアともに、各自治体の統計や調査出版物を収集する作業を行った。これらにより日本側の資料（外務省「海外在留邦人統計」など）には含まれていない統計をも入手することができた。また、多文化・他民族化が進展する両国において、いかに国家が「統合」を図るのかという点についても、連邦政府や州政府レベルの資料から実際に移民たちが手にする資料まで、多くの現地でしか得られない一次資料を得ることができた。

### ② アンケート調査

ドイツ在住の日本人を対象として移住・定住プロセスに関するアンケート調査を実施し

た。居住地選択や学校選択、家庭での言語使用の状況など、メインの質的調査を補う点に関するデータを得ることができた。

③ 質的研究：参与観察および聞き取り調査

ドイツ、オーストラリアともに、現地の日本人組織の活動や運営に関わりながら、参与観察を行った。ドイツでは、独日協会、日本人会、MJFC、オーストラリアでは、クイーンズランド日本クラブ、日本人会、わははの会などの活動や行事に参加し、参与観察を行った。これらの参与観察を経て、インフォーマルインタビューおよびフォーマルインタビューを実施し、それらの成果は、2020年5月の日本文化人類学会にて発表予定（査読審査通過済）である。

また、ドイツでは現地の日本人学校の教員への聞き取り調査も実施した。文科省が進める学校の「国際化」の動き以前に現地ですで行われてきた国際化の取り組みに関する現場レベルでの声を聴くことができた。これらの聞き取り調査の内容は、2019年9月にドイツのツツィングにて開催された学会 ISHD “Migration and History Education” にて発表した。

追加した論点：1世の高齢化と福祉に関する調査

上記の3つの調査を行う中で論点の追加も行い、計画書には記載していなかった点についても調査した。ドイツ、オーストラリアともに、「移住者1世の高齢化と福祉」が現地の日本人コミュニティ内で大きな課題となっており、その点に関する調査も実施した。この点に関して、ドイツでは、ミュンヘン「松の会」やデュッセルドルフ「竹の会」、オーストラリアでは「クイーンズランド日本クラブ」、「ブリスベン青年団」、「わははの会」の創設メンバーおよび現在の運営メンバーへの聞き取り調査を実施した。

両国において、移住者一世をいかに支えていくのかという問題は大きな課題となっており、「松の会」などの相互扶助の形態から「わははの会」などの集会実施の形まで様々である。高齢化に伴い、母国語や日本食への回帰が顕著にみられるようになり、異国での老いには、「日本語」、「日本食」、「日本文化」を含む福祉を欠かすことができない。これらは、本来であれば日本人会のようなオフィシャルなエスニック組織が担うべき福祉だが、ドイツやオーストラリアの他のエスニック・コミュニティと異なり、海外の日本人会は、駐在員や現地在住日本人ビジネスマンが中心となっており、会の活動として1世の福祉までを深い関与を含む形で実施されていないのが実情である。領事館や地元行政側としては、高齢の一世居住者に急病や社会的問題が生じた際に、実際にサポートする組織や人員を必要としており、これらの草の根型のネットワークの重要性が現地で増している様相が調査を通して明らかになった。国民国家や行政組織（領事館や地元自治体）、現地のオフィシャルなエスニック組織、高齢化する1世を支える草の根組織、の三者をめぐる相互作用やその間に存在する紐帯に関する分析や理論的解釈については、2020年5月の日本文化人類学会にて発表予定である。

上記内容の成果発表・公開の機会：

学会発表

2019年9月9日 “New Types of Migration in the Era of Globalization” ISHD Conference “Migration and History Education” 於 Akademie für politische Bildung, Tutzing ドイツ

2020年5月30日（予定）「移民の老いとエスニック・コミュニティ：オーストラリア・クイーンズランド州南東部の日本人コミュニティにおける福祉組織」日本文化人類学会

講演

2019年8月20日 „Japanische Migration nach Deutschland “アウグスブルク大学

2019年9月27日 “Japanese Middle Class Migration to Germany and Australia” クイーンズランド大学

2020年2月11日「海外の日本人コミュニティの現在：ドイツ・タイにおけるシニア層福祉」

以上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※関西学院留学は所属長を経て、宣教師研究期間は大学教員は学部長及び学長を経て院長に、高中部教員は各部長及び高中部長を経て院長に提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。